

行政



復興の総仕上げに向けて

新しい年の始めにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

町民皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのことと存じます。

さて、昨年十月の南三陸町長選挙におきましては、大変多くの町民皆様から温かいご支援を賜り、引き続き町政運営を担わせていただくことになりました。今後におきましても、町民皆様からのご意見、ご要望を十分に取入れながら、全力を挙げて復興事業に取り組み所存でございますので、変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は、震災直後から「生活再建・住宅

再建」と位置付け、復興事業の柱として取り組んでまいりました。防災集団移転事業、災害公営住宅整備事業が終了し、高台団地には真新しい住宅が建ち並び、その周辺には役場庁舎や保育所等の公共施設が建設されました。更に、嵩上げされた志津川・歌津旧市街地には新商店街がオープンし、三陸沿岸道路が歌津ICまで延伸するなど、町民皆様の生活基盤整備が加速度的に進んだ年でありました。

本年は、志津川保育所、学校給食センター、生涯学習センター等の公共施設が完成を迎える予定であり、漁港や防潮堤の復旧、道路整備等の事業が本格化してまいります。

南三陸町長 佐藤 仁

今後の施策方針といたしましては、震災復興計画の最終年度となる平成三十二年度に向け、町民皆様の安全・安心を支える各種基盤整備の着実な復旧と、震災の記憶を後世に伝承する拠点として、震災復興祈念公園や（仮称）震災伝承館の整備を進め、「復興の総仕上げ」をしっかりと行ってまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、平成三十年が、町民の皆様にとりまして輝かしい未来への幕開けの年となりますことを心からお祈り申し上げます、新年の挨拶といたします。

議会



さらなる復興・創生のために

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられましたこと心からお慶び申し上げます。

また、旧年中は、町議会の活動に深いご理解とご協力を賜り、心から厚く感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、各種の復興事業がある程度順調に進展し、町の復旧・復興が目に見えて実感できる年でありました。さらには、三陸沿岸道路が歌津ICまで

延伸し、救急医療や企業誘致、交流人口の増加に寄与するものと大いに期待するところでもあります。

これもひとえに、今もなおご支援をくださる皆様のお力添えと、復興への思いを胸に歩み続けられた町民各位のご努力の賜物と、衷心より感謝を申し上げます次第です。

本年は、復興そして創造と新しい町づくりがより一層進みますが、人口減少や少子高齢化などの様々な課題を解決しながら、持続可能な町を創り上げなければなりません。

南三陸町議会議長 三浦 清人

そのためにも我々議会としては、「主権在民」住民のための議会として、議会や町政に対する町民皆様のご意見・ご要望等を伺い、その思いを執行機関に届けながら、後世に誇れる安心して暮らせる町づくりを目指し、まい進してまいる所存でありますので、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸、そして本年が更なる復興と飛躍の年となりますことを心よりご祈念申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。

南三陸なうな人

この町で20年。変わらぬ想いがある。

【千葉 秀さん】



「南三陸の好きどころは、みんな人がよいところ」と話す秀さん

この冬、めでたく成人を迎える南三陸の若者は152人。中学校1年生のときに東日本大震災が発生。中・高という多感な時期を激動のまちと共に歩んできた年代の子どもたちだ。成人式実行委員長を務めるのは歌津地区出身の千葉秀さんだ。現在は、町内の土木建築工事を行う企業に勤めている。

中学1年で被災。避難所では、大人と一緒に支援助物を運んだり、まき割りをしたりしていたという。さらに、小さいときから泳いでいた思い出が詰まった海水浴場。がれきで埋め尽くされてしまったその浜を復活させたいとビーチクリーンのボランティアにも参加した。多くのボランティアと出会い、語り部として震災前の様子を伝える活動もした。「小さいときから海で釣りをしたり、泳いだり、この町が好きだった。景観は大きく変わってもこの町に対する気持ちに変わりはない」

高校卒業を機に、進学や就職で町を離れる仲間も多く、町内に残る友人はわずかだ。だからこそ「成人式という機会に、久々にみんなに会えるのが本当に楽しみ」と話す。つかの間の再会を経て、南三陸で育ったということ誇りに、全国各地で活躍していく新成人の姿が楽しみで仕方ない。

南三陸なう 検索 秀さんをもっと詳しく知りたい人は、南三陸公式ブログ 南三陸なうをご覧ください。

ネイチャーセンター準備室だより 【コクガンの季節】



今年もたくさんのコクガンが南三陸の海へやってきました。コクガンは国の天然記念物に指定され、世界で7,000羽ほどしかいないとされる絶滅危惧種（絶滅危惧Ⅱ類）でもあります。しかし、南三陸では、浅瀬や港でせせとアオサなどの海藻や、アマモなど海藻の葉を食べている様子を身近で観察できます（昨年度、町内でのカウント調査では200羽以上の飛来が確認されました。今シーズンも3回ほどカウント調査を予定しています）。

立派な大人のコクガンの背中も真っ黒で堂々としていますが、昨年産まれた若いコクガンの背中

には白いラインが何本か入り、淡い色合いになります。こうした若いコクガンにとって、遠くシベリアから南三陸までの長旅は想像を絶する試練だったことでしょう。途中で命を落とす若いコクガンも少なくないといえます。海辺で若いコクガンを見つけたら、長旅の労をねぎらって温かく見守ってほしいと思います。

農林水産課 ネイチャーセンター準備室 ☎25-9703